平成19年度	事務事業評価表	担当	上下水道部	水道課			内線等	2212	
事務事業名	県営水道受水事業	事業 5.義務的事業 コード					¥		
根拠法令等	愛知県営水道用水供給	事業給	水規定		Dその他				

総合計画での位置付け

基本目標	2.快適でやすらぎのあるまちづくり	施策名	水資源
------	-------------------	-----	-----

事務事業の内容

対象(受益者)	水道水を
手	段	愛知県企業庁から購入することにより
想定す	る成果	安定的な水道水の供給の確保を図る。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
年間受水量	10,765,401 m³	10,821,949m³	11,100,000m³
受水費	815,816,674円	817,111,460円	824,655,000円
日最大受水量	34,742㎡/日	34,888㎡/日	35,000㎡/日

成果指標

成果指標名	承認基本給水量	受水量率
成果指標の説明	年度別承認基本給水量	年間最大受水量 / 承認基本給水量 × 1 0 0

事業の進捗状況 (水道事業 会計) (単位:千円)

		平成	18年度》	夬算(実	:績)	平成19年度決算(実績)				平成20年度予算(計画)				
成果打	旨標		37,300)㎡/日		37,300㎡/日 37,300㎡/E)㎡/日				
成果排	旨標		93	. 1%			93.5%				93	93.8%		
	事業費			81	5,850	817,209				824,762				
事業費	人件費				3,892		3,905			3,138				
尹未貝	(人数)	正規	0.5	非常勤		正規	0.5	非常勤		正規	0.4	非常勤		
	合計			81	9,742			82	1,114			82	27,900	
	国													
	県													
財源内訳	市債													
	その他													
	一般財源			81	9,742			82	1,114			82	27,900	

事務事業内容の評価

項	E	1	課内	評価	部長	評価	があるが明く問題より
垻		1	19評価	16評価	19評価	16評価	評価の説明(問題点)
達	成儿	度	3	3	3	3	冷夏、酷暑の年があり、需要量の変化があり、いかに受水 量を抑えるかによる。
経済	対率 性	性	3	3	3	3	承認基本給水量の低減をはかり、受水費の減額をする。
事務	務効率 (性	3	2	3	2	毎年7月末から8月中旬に日最大受水量が計測されている、これにあわせ流入コントロール操作を実施する。
必	要(性	-	3	-	3	義務的事業
小	計	t	9	11	9	11	
施策~	への貢献	献度	3	-	3	-	県水100%依存の水道事業であり、安定給水に貢献してい る。
合	計	†	12	11	12	11	

達成度等各項目は、0~3点までの4段階評価

	В	А	А	А	総合評価
--	---	---	---	---	------

総合評価は、A~Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」

承認基本給水量を37,300㎡に減額したことによる、水量超過の監視体制の充実のため、平成17年度清田低区配水場にカウンター盤を設置し、流入コントロール操作するため、蒲郡浄水場に2時間前に連絡(豊川用水の送水量減量)をとる必要があり、体制つくりが必要。

上記改善点の実施状況

平成19年4月より蒲郡浄水場が廃止、豊川浄水場よりの送水となり、減量の連絡をする必要がなくなった、また蒲郡調整池の設置計画も進んでおり築造後、流入コントロール操作が的確に行えるようになる。

今後さらに改善すべき点

県との数値誤差を生じさせないように、カウンター盤の 精度をあげる必要がある。

平成21年度予算に反映する項目

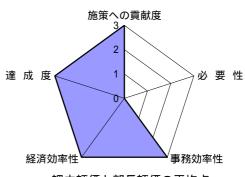
承認基本給水量の減量にかかわる運用基準が、過去5年間の最大値から3年間に短縮され、蒲郡市としては減量することができる。

今後の方向性

現状維持

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点